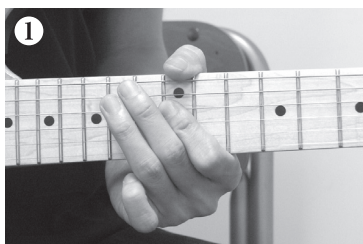


注意点 1

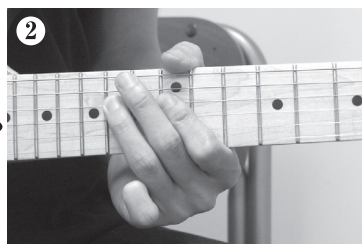


カッコ良さ? 弾きやすさ? ラン奏法の指使いを覚えよう

ラン奏法とは、ハンマリング、プリング、チョーキングなどのギター・テクニクを駆使したフレーズを何度も反復し、スリリングかつ高揚感のあるサウンドを聴かせる奏法。ペンタニクをベースに弾かれることが多く、有名な使い手としてジミー・ペイジ、マイケル・シェンカーなどが挙げられる。このフレーズでは、マイケル・シェンカー風の小指をあまり使わない元祖ラン奏法の指使いを採用している。右の写真は1小節目1拍目を写したもののだが、5弦14フレットの押弦は、薬指ではなく中指となっている。少し無理矢理な指使いとなっているが、これが見た目のカッコ良さを演出しているのだ。ただし、自分の弾きやすい指使いを採用しても良いので、好きなギタリストのフィンガリングなども含めて研究してみてほしい。



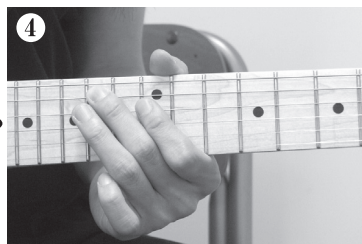
4弦12fを人差指で押弦。14f上空に薬指を待機させよう。



4弦14fを薬指でハンマリング。次のプリングの準備も!



薬指によるプリング。3弦に当たらない程度に引っ掛ける。



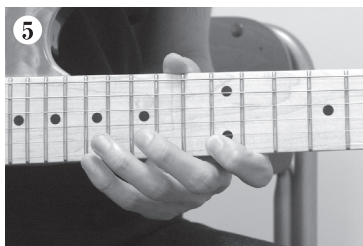
5弦14fを中指で押弦。ここは薬指を用いる場合もある。

注意点 2

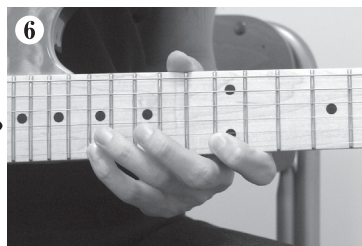


ミュートに注意してノイズ地獄から抜け出せ!

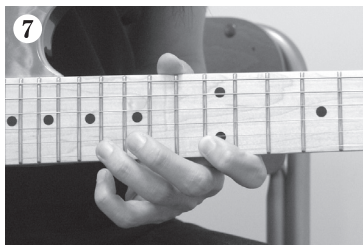
ラン奏法は、反復フレーズのためノイズ対策を怠ると、同じ場所でノイズが鳴り続け、ミストーン地獄に陥りやすい。そのため、慣れるまではポジションを1つずつゆっくりと弾いて練習するようにしよう。その際に、ノイズの聴き分けとその原因を確認することが大切だ。このフレーズでは、3小節目のストレッチ・フォームが最も難易度が高いので、じっくりと練習してもらいたい(写真⑤~⑧)。1弦12フレットを押弦する人差指で2弦をミュートしつつ、1弦17フレットをしっかりと小指でハンマリング&プリングしよう。プリングの瞬間に、次に押弦する中指を2弦上で空中待機させ、スムーズなフィンガリングを目指そう。



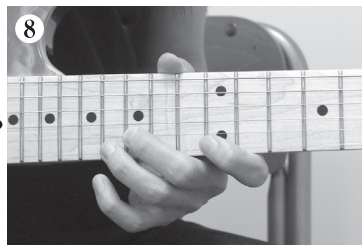
人差指による押弦。2弦のミュートも忘れずに。



小指でハンマリング。次のプリングも意識しておこう。



音量が小さくならないように、下方向に引っ掛ける。



中指による押弦。次の人差指の押弦準備をしておこう。

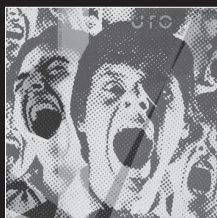
~コラム 23 ~

地獄の戯れ言

ここでは、ラン奏法の名演が聴ける楽曲を3曲紹介しよう。まずは流麗なラン奏法が収められたUFOの「ライツ・アウト」。マイケル・シェンカー・ファンの間でも、最高のプレイの1つだと評判が高い内容で、彼のフレーズの構築美を存分に堪能できる。2曲目は、エクストリームの「ゲット・ザ・ファンク・アウト」。ヌーノのグルーヴィーでありながらもキッチリとしたプレイは、リズムの勉強にも役立つはずだ。最後は、ホワイトスネイクの「バッド・ボーイズ」。ジョン・サイクスによるペンタのラン奏法は、非常にスリリングな仕上がりで、まさに圧巻の一言。

プロに学べ!

ラン奏法名プレイ紹介



UFO
「ライツ・アウト」
from「UFO ライヴ(エクステンデッド・エディション)」



エクストリーム
「ゲット・ザ・ファンク・アウト」
from「ボルノグラフィティ」



ホワイトスネイク
「バッド・ボーイズ」
from「サーペンス・アルバス(白蛇の紋章)」